

絆
きずな

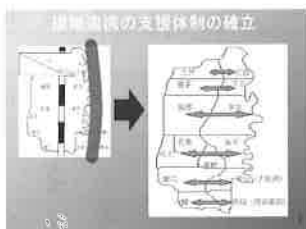
東日本大震災津波 ～県中5年の歩みとこれから～



岩手県中学校長会総会において、高橋康文副会長（北松園中）から、東日本大震災津波発災より5年間にわたる県中学校長会の取組を「東日本大震災津波から5年の歩み」と題して情報提供が行われた。

1 横軸連携スタート

岩手県中学校長会では、甚大な被害を受けた沿岸部の中学校長会とあまり被害を受けなかった内陸部の中学校長会との横軸による支援体制を構築することにしました。「久慈と二戸」「下北と岩手」「宮古と盛岡」「釜石と遠野・花巻・北上」「大船渡と胆江」「陸前高田と一関」の6ブロックとしました。



2 全日中からの支援

全日本中学校長会からは、発災翌年の2月に被災27校に2張ずつ計54張の和太鼓を寄贈いただきました。スライドは、当時の大江会長が広田中学校を訪れ、太鼓を引き渡した当時の新聞記事です。



3 記録集（第1集）発刊

発災から1年が経過した平成24年3月、県中学校長会では、それまでの取組をまとめ、「明日を見て 前を向いて」と題した記録集を編纂しました。



4 記録集（第2集）発刊

3年が経過した平成26年3月には、3年間の生徒たちの姿や各学校の取組の一端を記録として綴るべく、「東日本大震災の記録・第2集」を発刊しました。全国の皆様からいただいた多大な支援に感謝するとともに、震災を忘れない・風化させない、という思いを発信する一助となることを願っての発刊でした。



5 被災校情報交換会を開催

平成27年7月、釜石市立釜石中学校を会場に「東日本大震災津波被災校情報交換会」を開催しました。この情報交換会は東日本大震災津波から4年が過ぎ、社会状況が変化する中、(1)各地区中学校との連携を強化すること(2)いわての復興教育の一層の推進を図ること(3)今後の支援の在り方を協議することの3点を目的として実施しました。



6 交換会での協議（まとめ）

協議の柱とした「今後の支援の在り方」をまとめました。意見として、(1)意識を風化させない取組が必要であること(2)横軸連携は無理なくすることが大事であること(3)バス支援の継続と弾力的な運用のことなどが出され、今後の方向性が確認された意義ある情報交換会となりました。

終わりに、発災から5年が経過しました。県中学校長会においては横軸、そして縦軸の連携を大事にしながら県内163校164人の会員が一丸となって「学びの場」の復興に取り組む必要があります。今後も、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

【ご冥福をお祈りいたします】

総会に先立ち、急逝された盛岡市立城南小学校の三上聡校長を追悼し、参会者全員で黙祷を行いました。